

【評価実施概要】

事業所番号	3770102014
法人名	医療法人社団 青冥会
事業所名	認知症高齢者グループホーム第三若葉荘
所在地	香川県高松市上林町822-1 (電話) 087-815-5010

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成19年5月11日

【情報提供票より】 (平成19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)14年10月25日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	17人 常勤 9人 非常勤 8人 常勤換算 15.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,650円	その他の経費(月額)	約10,000円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300円		

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	16名	男性	6名	女性	10名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	5名	要介護4	5名		
要介護5	2名	要支援2			
年齢	平均 83.8歳	最低	68歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団青冥会 ミタニ藤田病院・松之内歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

玄関ホール正面の職員室を挟んで、左右に1ユニットずつ配置され、職員が両方のユニットを見守ることができる構造になっているため、両方の職員が連携し、効果的なケアに取り組んでいる。また、双方の入居者が、お互いに自由に行き来して親しんでいる。職員は利用者一人ひとりの個性を尊重し、本人の生活リズムやペースにあった支援を心がけている。明るく清潔なホームで、利用者はゆったりと自分のペースで自由に過ごしている。
協力医療機関に隣接しており、協力体制が確保されているため、緊急時にも安心して生活できる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では、運営理念、ケアサービス、運営体制の分野でいくつか改善課題があったが、評価を活かすため事業者や職員が課題を共有し、具体的に解決できることから意欲的に取り組んでおり、順次改善されつつある。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員が、全員で自己評価に前向きに取り組み、自ら今後取り組んでいきたい項目について明らかにし、実践につなげていこうとする意欲がうかがえる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>事業所から、広報や入居者状況等を報告したり、交流方法等の地域との交流や、消防訓練への地域住民の協力依頼などを協議している。討議内容を活かし、地域交流会を開催している。会議での討議以外に、市との連携が今後の課題である。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時などを利用して、家族に健康状態やホームでの様子を報告し、家族の要望、意見などを聴いている。家族等から得られた意見等は記録して、事業者、職員間で共有し、運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>重点項目①での取り組みにおいても、地域との支えあいの分野で課題が残っている。地域の自治会等への働きかけは行っており、地域との交流会を実施し、参加の呼びかけをするなど努力している。少しずつ、つながりができつつあるが、まだ交流が深まるまでには至っていない。今後の取り組みが期待される。</p>

※ は、重点項目。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	若葉荘で独自に考え、作りあげた、分かりやすい理念を掲げている。地域密着型サービスの意義・役割は理解されているが、まだ理念に反映されるまでには至っていない。	○	今までの理念に加え、「地域の中でのその人らしい生活」を支える、事業所独自の具体的な理念を職員全体で考えるとともに、第三若葉荘として具体化したものを作っていくことが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は共有されており、職員一人ひとりが常に意識して、日々の具体的なケアの中で取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会等への働きかけは行っており、地域との交流会を実施し、参加の呼びかけをするなど努力している。少しずつ、つながりができつつあるが、まだ交流が深まるまでには至っていない。	○	地元自治会等に事業所の実践を伝えたり、地域住民の一員として地域の行事などに参加するなど、今後の取り組みが期待される。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、自己評価は、事業者、管理者や職員がともに話し合っ取り組んでおり、外部評価の結果も共有し、具体的に解決できるところから前向きに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議を開催し、そこでの意見をサービスの向上に活かしたり、地域の支援を得るための機会としている。今後評価への取り組みについても、報告や意見をもらう予定がある。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議で事業所の実情や、ケアサービスの取り組みを伝えているが、それ以外に行き来する機会ほとんどない。	○	市担当者へ事業所の方から実情やサービスの取り組みを伝えるなど、普段から相談できる関係づくりが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に、必ず家族に報告する時間をとっている。また、2か月に一度、手紙で健康状態やホームでの様子、金銭出納等を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時などに、話しやすい雰囲気づくりに配慮し、家族等から得られた意見は記録して、職員間で話し合いを行い、共有し取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の新設事業所への配属や、法人内施設で専門的な経験を積むための異動等も含め、管理者や職員の異動は比較的多い。	○	職員交代による引継ぎはスムーズに行われているものの、職員と利用者の馴染みの関係を保つことは重要であり、職員の異動等を最小限に抑える努力や工夫が期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での総合研修や業務上での介護実技指導は行われているが、職員に研修を計画的に受講させるまでには至っていない。	○	職員の質の確保や向上のため、計画的に、段階に応じて、事業所外の研修への参加も期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在のところ、同一法人内のグループホーム間の交流は見られるが、他の同業者との交流は個人的なつながりを除くと、管理者や職員レベルではあまり見られない。	○	管理者や職員が、地域の他の同業者と交流や連携を通じて、サービスの質の向上に役立てるよう実践的な取り組みが期待される。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	緊急時での相談が多く、入居前に管理者が本人や家族に面談しているが、早急にサービスを開始する場合が多い。	○	家族や医療機関と十分話し合い、入居が予測された時点で、少しでも早めにホームが関わっていけるような取り組みが期待される。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として、時に利用者に教えてもらったり、共に一つの家族としてお互いに接しており、本人らしい自然な表情で穏かに、自由に生活している様子がうかがえる。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情から、本人の思いを汲み取るよう努めており、記録して、職員間で話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向や家族の希望・要望を聞き、職員全員で意見交換やカンファレンスを行い、気づきや意見、アイデアを活かして、個別の具体的な計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に一度の定期的な見直しのほか、本人の状態の変化や本人や家族の要望に応じて、見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	指定を受けたサービスはないが、本人や家族の状況に応じて、通院や診療の付き添い等、必要な支援は柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、本人や家族の希望があれば、以前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう支援している。基本は家族同伴の受診であるが、必要に応じて通院介助を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師や家族と十分話し合いを行い、医療機関の協力の下、できる限り、本人や家族の希望に沿えるよう取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員から利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損なうような言葉かけや、対応はみられない。個人情報の取り扱いについても留意されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日のスケジュールは持っているが、多くの時間を利用者一人ひとりが自分のペースで過ごしており、職員は見守りながら支援している。ユニット間で自由に行き来して、楽しんでいる場面も見られた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付け等ができる人は、一緒に行っている。献立や食材は、同一法人で同じ献立の材料を共同購入しているが、事業所でその材料の範囲内で、利用者の好みを取り入れ献立に変化をつけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望者は夜間を除き、毎日でも入浴できるよう支援している。入浴嫌いな人にも、最低週2回は入浴するようスケジュールを立てる等の対応を工夫している。職員体制の工夫ができれば、夜間入浴にも取り組みたいとの意欲は持っている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りを一緒にしたり、ちょっとしたことを手伝ってもらい、感謝の言葉を伝えている。また、趣味の絵を飾ったり、花を飾ったりと、個人での楽しみの支援がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所周围での散歩等で、気分転換や季節を感じる工夫をしている。時々、外出はしているが、日常的に散歩や買物等で戸外に出かけるまでには到っていない。	○	近隣に店がない等、地理的条件もあるが、買物等での外出や日常的な散歩等に、歩行困難な場合も車や車椅子等を工夫して、積極的に取り組むことが期待される。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出しそうな様子を察したら、職員同士が声をかけて、手の空いている職員と一緒に歩いて行くようにしている。見守りにより、日中は玄関の鍵はかけないケアをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認などを定期的に行っている。地域の協力については、運営推進会議等で協力を呼びかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量は、チェック表を作成して記録し、職員が情報を共有している。基本的に、栄養士が作成した献立の材料で調理しているため、栄養バランスは確保されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや玄関などは、自然光を取り入れ適度に明るく、季節の花や飾りつけ等で、居心地のよい生活空間づくりがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのベッドや小ダンス以外は、思い出のものや好みの物を持ってきたり、自分の作品や写真、花を飾ったり、各自自由な個室となっている。		